

2026年度大学入学共通テスト分析[英語リーディング]

大問番号	配点	テーマ	設問	難易度	問題文Word数 (-)は前年差	全体Word数 (-)は前年差	目安時間 (分)	特徴	2026年度 本試験 平均得点率	2025年度 本試験 平均得点率
全体	100	—	—	やや易化	3,937 (-293)	5,642 (-67)	80	—	62.81%	57.69%
第1問	6	[テキストメッセージのやりとり] ダンスの発表で着る衣装について	内容の読み取り	昨年並	203 (+23)	275 (-6)	4	・問2のイラスト問題は本文の tank tops inside から③のように「シャツを脱ぎ掛け」のものを選ぶミスをしてしまった受験生も多いのではないか ・2022年度追試以来のテキストメッセージでのやり取りの問題 ・過去のテキストメッセージのやり取りは2名だったが、今回は4人のやりとりで、話者ごとに意見を整理して理解する必要があった	—	56.02%
第2問	12	[ウェブ上の記事] 大学寮についての満足度調査	記事の内容と意見の読み取り	昨年並	282 (+8)	466 (+56)	7	・問1は「意見」はどれかを問う設問で、選択肢の中には「事実」であるが内容的には正しいものもあり、今年も「意見」と「事実」を区別する力が問われた ・ウェブサイトの記事に対して異なる立場の2つの意見がつく形式は共通テストの試行調査での形式に近く、第2問の段階で数値に注目させる問題が出ているのが特徴的	—	67.50%
第3問	9	[物語文] ワークショップでのある高校生の体験	物語の流れの読み取り	やや易化	302 (-41)	400 (-15)	7	・高校生の「私」が、自身の感情を制御できるようにするために参加したワークショップで、虫を殺生せずに逃がす穏やかな心をもつことの大切さを学ぶまでについて語られている ・問1と問2は本文の流れを追えば迷わず解説できる ・問3は正解選択肢の tender(優しい)はCEFRのB2レベルかつここ3年は登場しなかった語なので難しいが、消去法でも選べる ・今年の物語文は第6問とあわせてどちらも予測しやすい身近な内容かつ自然な展開だが、時系列の遡りのない第3問の方が易しく、分量も少なかった ・昨年度の第3問の問1のような話者を選ぶ設問はなくなり、2025年度よりはやや難化したが、それでもやや易程度で、早く解き終えて次の大間に移りたい1題という印象	—	68.80%
第4問	12	[ニュースレター] 高校のエコウイークのテーマ「廃棄物管理」を広めるためのオンラインニュースレターの草稿と顧問のコメント	文章の展開や論理の読み取りおよび英文の推敲	昨年並	386 (+17)	564 (+25)	8	・問1はポスターを作る目的を選ばせる問題、問2はレースのルールを紹介する1文を入れる箇所を選択する問題で新傾向 ・問3の選択肢の語数が13~19語と、2025年度(10語程度)より多かったが、設問レベルとしては2025年度から変化なし ・ディスコースマーカーの設問がなくなっている	—	75.56%
第5問	16	[チラシ、フォーム、メール] 図書館のイベントに関するチラシ、オンラインフォーム、メール	複数資料から読み取った情報の整理とそれに基づく推論	昨年並	593 (-77)	800 (-101)	13	・読む英文の種類がメールが2本だった2025年度から、チラシ、フォーム、メールという3種類になった ・問3と問4は複数の文章の照合が必要となった ・フォームの情報量が多いものの、難度や所要時間は2025年度並みだったと思われる ・2025年度は米国設定だったが、今年は英国設定で、centre、familiariseなど英国スペル(イギリス英語)が見られる ・選択肢にイラストを含む出題がなくなった	—	62.54%
第6問	12	[物語文] 授業で発表する物語の概要作成	物語の概要理解と要点把握	昨年並	701 (-94)	962 (+1)	13	・問1の①は文章の描写から読み取る必要があった ・問2は時系列で考える点に注意が必要だった ・2025年度は友人へのフィードバックという形式だったが、今年はアウトラインのまとめとなつたため、感想や改善提案を示す問題(本文に掲載も示唆もされていないことを選ぶ必要がある問題)は出題されなかつた	—	41.59%
第7問	16	[記事] マインド・ワンドリングについての文章の発表用スライド作成	科学的な内容の文章の読み取り、要点把握・整理	昨年並	660 (-100)	995 (+45)	13	・科学的な内容で難語が含まれるが、単語の意味はわからなくても各スライドに明示されているキーワードを目印に該当箇所を探せば、それほど解答に苦労しなかったと思われる ・問5はスライド内の空所補充ではなく、新形式の出題だった ・4人の生徒の生活習慣をそれぞれ読み取り、本文内のTips(コツ)と合うものを探す問題で、most likely to gain the benefitsの意味の理解や本文との照合に時間がかかったと思われる ・2025年度の発表用資料はPresentation outlineを完成させるものだったが、今年度は2024年度第6問Bと同じPresentation slidesの中の空所を埋める形式が復活した ・2025年度の問1の本文と合わない内容を選ぶ問題、問2の図を選ぶ問題、問5の見出しを選ぶ問題は出題されなかつた	—	50.36%
第8問	17	[意見・記事] スポーツ競技におけるテクノロジーの進歩の是非に関するエッセイのアウトライン作成	複数の意見と資料に基づいて情報を整理し、エッセイのアウトラインを完成	昨年並	810 (-29)	1,180 (-72)	15	・新傾向の問題がなかったため、昨年度も得点率が低かった問5(最終問)を時間がない中で正確に照合できたかで差がついたと思われる ・2025年度からの変更点は、Step3のEssay OutlineのBodyのまとめ方と問5の設問指示文が改良されたことのみ(出題内容の変更ではなく、英文の書き方によって意味を理解しやすくなった) ・問1の設問の動詞がexpressからsummarizeに変わった他、細かい単語の変更はあったが、読み取らせたい内容は変わらず ・選択肢は、2025年度の3語の短い1文から、試作問題第A問のように10語程度と長くなつた ・一方で、問3の42の選択肢は2025年度の語数(13~16語)に比べ、短め(8~10語)になっている	—	46.56%